

「旭川市江丹別若者の郷活性化協議会」会議録 （平成27年度第4回）

- ◆日時 日時 平成28年3月22日（火）午後2時00分～午後4時00分
- ◆場所 旭川市江丹別若者の郷 若者センター 1階ホール
- ◆出席者 委員7名（50音順，敬称略）
荒川求，坂下武，鈴木瑠依，中田浩康，三上正
水澤拓二，横口三智夫（欠席：佐々木悟）
事務局職員 3名
（農政部次長）加藤章広，（農政課長補佐）小浜洋人
（農政課農政係）保坂祥平

- ◆会議の公開・非公開の別 公開
- ◆傍聴者の数 0人（市民等 0人，報道機関0人）

◆会議資料

次第

- 資料1 若者の郷利用活性化検討資料（案）H28.3.22版
- 資料2 江丹別若者の郷活性化協議会・親子天体観測会アンケート結果等
- 資料3 ホエーを活用した試作品の試作結果
- 資料4 親子若者の郷くらぶ（案）

◆顛末

【開会】

開会し，佐々木座長が欠席のため水澤副座長が進行することとし，会議に入った。

1. 江丹別若者の郷の活性化策について

（1）親子天体観測会の結果

主な発言は次のとおり

副座長	前回の協議会ではホエーの加工品を試食し，その後，天体観測会やスノーシュー体験など行いました。結果の概要について，事務局から説明をお願いします。
事務局	＜資料「江丹別若者の郷活性化協議会・親子天体観測会アンケート結果等」に基づき説明＞ ・2月20日（土）に親子天体観測会を行った。あいにくの天候で残念ながら星を見ることはできなかったが，実施状況や見えてきた課題などを事務局なりに分析し，3つの改善点をまとめた。
副座長	江丹別小中学校の子どもたちは，その後，どのような反応でしたか。
A委員	特に無かったといえますか，映像を見て，それで満足したのではないかなと。
事務局	もう少し子供向けの方が良かったという気もしますが。
A委員	対象年齢をどこに設定したのかですよね。1年生と6年生ではずいぶん理解力が

	違いますので。
B委員	説明の上手下手というのは、天気予報をいつも読んでいる人のようにいかないのは当たり前の話でね、あと、お腹が空くのは、そういう時間帯で案内しているのだから、連れて来る親がきちんと気をつかわないと。
事務局	反省としては、告知する際に盛り込んでおけば良かったと思っています。こちらで食べ物を提供できれば良いのですが、ハードルも高くなりますので、実際には厳しいです。天体観測会に限らず、食事を準備していただくなど、何らかの告知をしておく必要があると思っています。
副座長	それはB委員が言ったように、普通は親が考える事では。コンビニがないですとか、夕食の時間帯にかぶりますとか事前を書いておけば、親御さんが食べさせてくるのでは。
B委員	天体観測会は、一年に3回も4回もやっていいと思う。何が起こるか分からない楽しみがあるので、早い話が、みんな遠足気分で来るわけで。だから、別に食べ物を用意しなくても、案内する時に書いておけばいいのではないかな。
事務局	天体観測会の時は、ホットミルクが出てきてちょっと落ち着いた感じがありますよね。
A委員	天体観測会だけではなくて、例えばそば打ちや、夜の散策とあわせると、一方が駄目でももう一方でカバーできますよね。
事務局	それも一つの方法かなと思っています。今回は、子どもの集中力を考えると長くなりすぎるかなと思ひまして、企画を一つに絞りました。
C委員	B委員が言うように、告知の時に盛り込んでおけば、親が事前に食べてから行こうですとか、お腹が空くから何か持って行こうということになるのでは。私の会社では、大人の参加がメインですが、ナイトスノーシューというのをやっています。大体18時から20時くらいの時間帯でやるので、早めにご飯を食べてきてもらうとか、こういう時間帯に行くことを分かった上で参加してもらうようにしています。説明については、よくやっていただいたと思います。低学年と高学年では理解力に差があると思うので、対象を明確にして分かりやすい言葉で噛み砕いて説明できればなお良かったとは思いますが、スライドなどできちんと説明していただきたいので、ある意味代替案としては成立していたのでは。
A委員	何年生くらいを対象に説明しますという文言を入れておくと、そこに合わせた年齢層の子どもたちが集まりますよね。
副座長	準備で大変だったとは思いますが、D委員はいかがですか。
D委員	企画自体は見ることはできませんでしたが、学校の勉強みたいで少し真面目すぎたのかなと。楽しめるレクリエーションというふうではなかったですよ。ご飯については、うちは軽く子どもに食べさせてから参加しました。食べ物を提供することはできなくても、お湯くらいは用意できるので、それを使うような食べ物

	を持参してもらう方法もありますよね。あと、星座速見盤は喜んでいました。
事務局	往復のバスに乗っている時間も結構ありますので、今回は事務局で江丹別の話をいたしました。何か工夫できないかと。
事務局	今後バスを使うかということもあります。直接来て頂くほうが楽なのかなと。バスだと17時出発なので、どうしても食事の時間に重なってしまう。
事務局	今回バス送迎にしたのは、冬の時期なので往復の危険を考えて、まとめて輸送したという部分が大きいです。
副座長	これについては、食事や時間、周知案内方法などに気をつけながらやるということですね。星が見えなかったにもかかわらず、江丹別まで来て良かったという人が8人もいるわけで、次回、夏などに来て実際に星が見えたら、本当に喜んで帰られるのかなと思います。
事務局	7月中旬からお盆までが一番天候が安定しているとのこと。南の空がよく見える場所がベストなので、夏であればロッジの前で見るのが良いかと。
E委員	そうであれば、その日にロッジに宿泊している人も参加できますよね。
副座長	この点については、改善点も踏まえながら次へ向けて検討を進めて行けば良いのかなと思います。

(2) ホエーを使った試作品の試作結果

主な発言は次のとおり

副座長	では次はホエーですが、事務局から説明をお願いします。
事務局	<資料「ホエーを活用した試作品の試作結果」に基づき説明> ・前回の協議会の際に、D委員の協力により、ホエーを使った加工品の試食会を行った。冬期の利用者を増やすことを目的に、ピクルスとジャム、肉を柔らかくする効果の確認を行った。事務局でホエー入りのパンも用意。実施状況から見てきた課題、今後の展開をまとめた。
D委員	ホエーを使ったジャムは、一方は作ってすぐに冷凍した新鮮なもの、もう一方は数日置いて発酵させてから冷凍したもので、作り比べをしてみました。
B委員	肉を漬け込む際のデータはとっているのですか。ホエーの濃度や漬け込む時間により、肉の硬さが左右されると思いますが。
D委員	特別にデータを取ってはいませんが、漬け込む時間を長くしすぎるとホエー自体が熟成して酸味を帯びてくるので、それは向かないかなと思います。
事務局	ジャムの保存や劣化についてはどうですか。
D委員	どこまで煮詰めるかだと思います。濃いと長く保存でき、水分が残っていると劣化が早いです。以前、スモモのジャムを作った時は1年近く持ちましたので、ホエーのジャムも瓶詰めする時にきちんと滅菌機を通せば、長期保存が可能では。
B委員	蜂蜜や樹液は腐らないので、そういうのを少し添加すると長く持ちますよ。

副座長	いずれにせよ、この3つはすぐにどうこうなるものではないでしょう。
事務局	今すぐに具体的な展開につながるものではありません。後は、地域への提案のようになってしまいますが、例えば、漬け込んだ肉を焼き肉用の肉として提供すると等ができれば、ここに来た人への売りにもなりますし、違った展開に繋がるのではないかなど。
A委員	コレステロールが下がるとか、効能はうたえないのですか。肉をホエーにつけると体に良いということであれば、多少味がぼけていても売れるのではないのでしょうか。味覚は人それぞれですし。もったいないですよ。
事務局	地域資源があるというのは確認できているが、それをどういうふうを活用していいのかという部分ですよ。
D委員	ホエーにあう料理が分かれば、味で突き詰めていくことも出来ると思います。効能も、乳酸菌の濃い液ですので、色々なことができるといいなと思っています。
A委員	ホエーを絞る元の材料は何ですか。ビタミンは入っているのですか。
D委員	チーズを絞る時に出るのですが、水溶性のたんぱく質がホエーとして流れ出てきて、残ったものがチーズになります。栄養価は高いですよ。ビタミンは、原材料乳に左右されますね。牛が食べる草、夏の青草と冬の干草とでは、やはり違う。
A委員	うちで分けてあげますので、欲しい人は取りに来てくださいと呼びかけたら、たぶん取りに来る方は沢山いるでしょうね。
副座長	引き続き活用策の検討を進めなければなりませんし、我々だけではなくて、ホエーに興味を持っている主婦の方々も沢山いらっしゃると思いますので、実際に食べてもらいながら、他の使い方も探っていくということで良いのかなと思います。

(3) スノーシュー体験の結果について

主な発言は次のとおり

副座長	次に、一昨日の日曜日に行ったスノーシュー体験です。資料はございませんが、C委員のガイドの下、スノーシューを履いて、ロッジから展望台、市営牧場をまわって、途中でスノーアートも描き、2時間かけて散策しました。 ところで、A委員にお聞きしますが、学校でもスノーシューをするのですか。
A委員	昨年と一昨年にやりました。
事務局	どの辺りを歩くのですか。
A委員	展望台までを、ぐるっと回ります。
副座長	引率いただいたC委員から、感想をいただけますか。
C委員	今回は検証ということで、フィールドワーク的な要素が強く、体力的に難しかった方もいたのかなと思います。ロッジから展望台まで行き、そこから市営牧場の遠い所へ行きまして、一周して2時間程度でした。 散策コースとしては、ロッジから展望台までの雑木林は子供向けに結構いろいろ

	<p>な目的が作れると思いました。夏場は笹藪になっている所ですが、スノーシューの楽しみの一つは普段行けない所に行くということです。広葉樹が多いので、夏はさえぎられて見えない江丹別の景色が一望できるのも良いですね。</p> <p>次に向かった市営牧場の雪原は、サッカーや球技、アルパカ牧場でもやっているエアボードやチューブ滑りのコースを設定するなど、一般の人が楽しめる、スポーツ的なアクティビティに使うことが可能だと思います。</p> <p>最後にレクリエーションでスノーアートを描きました。JAたいせつで「田んぼアート」をやっていますが、その冬版で、雪原にアートを描くわけです。先日青森県の田舎館村に行き勉強してきたのですが、そこでは田んぼアートの二毛作ということで冬のスノーアートに取り組んでいます。そこでは上から見下ろすのですが、せっかく斜面があるのでやってみたところ、本当に上手くいきました。冬の江丹別の市営牧場を使ってスノーアートのコンテストをやることもできるのではないかと。</p> <p>あと、当日はスノーモービルが入っていましたが、公の利用許可のような形で、ここの範囲では自由にやっていいというふうにすると、いいのではないかと。親子向けだったり、イベントだったり、コンテストだったり、コースだったり、様々な活用方法があるというのは実際にガイドしながら思いましたので、そこをもっと掘り下げて行けばいいのかなと思います。</p>
E委員	初めての経験でしたが、今の時期はスノーシューに向いているのですか。
C委員	目的にもよります。ネイチャートレッキングであれば、森の中に入って行くのでスノーシューを履きます。オリエンテーションで楽しみを含めてやるのであれば、雪質も固めの方が向いています。目的により装備や向いている雪質は変わりますが、雪が残っているのであれば、履いても履かなくてもスノーシューはあったほうがいいです。
D委員	1月～2月頃は雪がふわふわなので、スノーシューでも結構埋まりますよね。
A委員	つぼ足でも歩けますが、スノーシューの方が安全だし歩けるということですね。
D委員	当初は1時間くらいと思っていたので配れなかったのですが、ナッツなども持って行ったのですよ。思いのほか2時間もかかってしまいました。
事務局	大体1時間くらいのものなのですか。
C委員	いつもは、キトウシの森の中を2時間くらい回っています。ミッションカードというものを作りまして、例えば、「モモンガの巣を探してこよう」とか、「トドマツの木の樹皮をとってこよう」とか。そういうふうにミッションをつけてやると、なんだかんだ言ってスタートからゴールまでと、事後の学習時間も含めて2時間くらいかかりますね。
B委員	キトウシならここより樹木が多いでしょう。
C委員	多いですが、下のほうのキャンプ場付近は木がまばらです。若者の郷でやるので

	あれば、例えば、最初にカエデの木に穴を開けて、1時間くらい遊んで最後に回収するというのもできそうですね。
事務局	天気良ければ、一つの穴から1時間に1リットル程度は樹液が採取できますので、器具を仕掛けて1時間で戻って来て、溜まっている樹液を煮詰めてみるという自然体験ということですね。
C委員	この施設を活用するということであれば、そういう目的でカエデの樹を探して、樹液を持ち帰って厨房で煮詰めて、参加者にはパンだけ持ってきてもらうようにして、浸して食べてみるということもできますよね。
副座長	他のご意見はありますか。
D委員	山あり坂あり川ありで面白かったですよね。
事務局	普段は、防疫の関係で、夏場に牧場の敷地には入れませんので、そこに入っていけるのは面白かったですし、景色があんなふうに見えるんだなと。かなり良かったです。
E委員	スノーアートに色は付けられるのですか。
C委員	付けられますが、ただ融けた後が牧場なので変なもの使えません。美瑛でやっているのは、あそこは畑なのですが、おがくずに食紅の色をつけています。
事務局	卵の殻も使っているようです。
副座長	融雪剤で黒くできますよね。
C委員	ただ、この時期だと、そこだけどんどん融けてしまうかもしれませんが。
事務局	雪原は素晴らしいのですが、遊ぶ場所まで輸送手段が必要ですよね。坂の上まで運ぶためのスノーモービルですとか。子どもだと行くことも難しい。
B委員	グリーンセンターから降りていっても、帰りは上ってこなければならぬ。いずれにしても、正面の牧場の斜面は遠い感じですね。道は江丹別産業が重機でつけるしかないかな。
C委員	剣淵のアルパカ牧場であれば、スキーのリフトは全部撤去しているので、上までモービルで運んで、それをリフト代として有料でやっていますよね。
D委員	いざとなれば、トラクターにソリを沢山つけて運ぶという方法もありますよ。あと、市営牧場を冬場に使って良いという農政部の判断が必要だと思います。
E委員	冬のスノーモービルですが、牧草の生育に影響がないのであれば、有効活用したいところですね。
D委員	融雪が進んだ時期はまずいと思いますが、真冬であれば問題ないのではありませんか。後はゴミさえださなければ。
事務局	あれだけ広大な雪原ですから、何かやってみたい気はしますよね。スノーアートも良いですし。
D委員	雪中運動会であれば、手前の市民農園の辺りで十分できますよね。チーム対抗戦

	とかで。3つくらい種目がある。
B委員	イチイ並木の向こう側の広場も使えるよね。
副座長	スノーシュー体験もそうですが、せっかくの素晴らしいロケーションなので、冬場に何とか活用したいということですよ。次年度は継続して検討を進めるとともに、実験的に何かやってみてもいいのではないのでしょうか。

(4) 親子若者の郷くらぶ（案）について

主な発言は次のとおり

副座長	では、親子若者の郷クラブの案ですが、事務局から説明いただけますか。
事務局	<p><資料「親子若者の郷くらぶ（案）」に基づき説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・江丹別の自然や若者の郷の施設を活用し、これまでに出た様々な活性化案を入れ込みながら、親子で参加できる体験形式で、1年間実験的に取組んでみたいということで、案をお示しました。 ・今後のスケジュールも案である。基本的に江丹別地域のイベントと絡めた上で、自然体験や施設を活用したプログラムとしたい。例えば、ウチダザリガニ防除隊のイベントへの参加や、市民委員会で主催するイベントで、地域外の人に参加しても大丈夫だというものがあれば、盛り込んで行きたい。 ・既存のそば打ち体験や、スノートレッキング・天体観測会といったものも入れ込みながら、通年でどのようなことができるのか総合的に検証できるようなものにしていきたい。
副座長	モニターを募るとのことだと思いますが、今までの活性化案について複数の方に参加いただいて、感想を聞くということですよ、
B委員	川遊びだけれども、ザリガニ釣り以外にもヤゴもいるしカジカもどじょうもいる。そういうのは捕まえたら逃がして、ザリガニだけ残せばいいですね。
副座長	若者の郷の横の川で、エビを捕まえたって子どもたちが言っていましたよ。
B委員	透明な川エビですよ。水が綺麗だから美味しいんですよ。
E委員	ヤマベがいっぱいいるので、釣り人も結構入っています。
副座長	ザリガニ駆除を前面に出すよりも、川遊びということで、この辺でできればいいですよ。
事務局	江丹別の地域イベントに、市内から自由に参加できるものはありますか。例えば、パークゴルフ大会とかに、親子10組くらい参加するのはどうでしょう。
E委員	あのパークゴルフ大会は、この地域のお年寄りも皆楽しみに待っているんです。
事務局	どこかで、地域の人と接点を持てれば面白いかなと思うのですが。
A委員	正直なことを言うと、沢山の人に来てもらって一緒にできたら嬉しいかなと思う反面、地元の人たちが気を使うような大会になってしまわないか心配です。
副座長	そこは、川遊びや、食べ物を作る時にはD委員もいますし、地域住民と関わりが

	ないわけではないので、無理に地域の盆踊りに出るというよりも、そこはそういう整理で良いのでは。
事務局	他に、地域でやっているイベントはあるのですか。
B委員	盆踊りもありますし、幌加内の新そば祭りの頃、9月頃にお祭りもあります。
D委員	神輿の担ぎ手が少なくなっていると言えば、少なくなってきましたが。
C委員	江丹別のそば祭りってやっていないんですか。
B委員	私が農協にいた頃はやっていましたよ。農協を辞めて10年になりますが、当時はイベントの余ったお金を次年度の宣伝費に使っていました。冬まつりにも農業まつりにも出店していたんですよ。
C委員	若者の郷の活用であれば、せっかく江丹別のそばがあるのだから、一画でそばを作ってもよいのでは。種を撒いておけば、育つので。
事務局	市民農園の一画でやりたかったというのがあります。食べてみたい野菜の方がいいとは思いますが、まだ案ですので、これから詰めていければと思います。
副座長	では、内容についてはもう少し詰めることとなりますが、こういうことでやっていくということで、よろしいでしょうか。
C委員	もう一点あります。「親子若者の郷くらぶ」をモニターとしてやるのであれば、参加者のモニターももちろん大切ですが、経験上、内向きのモニターも必ずやった方が良いでしょう。というのも、この活性化協議会で様々な検討を進めていますが、それを継続してやるとなった場合、例えばアウトドアって面白いよですとか、夏休みにプチ冒険に出かけようですとか、それを地域で担うガイドさんを育てていく必要があると思うのです。高齢者が多いといいつつも、坂下さんのように元気で知恵を持った方も沢山いると思うので、そういう方々に指南役として参画してもらうような。外向きだけではなく、内向きでこういう人がいる、ああいう人がいるという、内向きの検証も行いながらやる必要があると思います。
事務局	地域の方々もからませながら、ということですね。
C委員	今は、学校でも地域の人と連携して様々な取組みをやっていきますので、そういう人にもご協力をいただいて。
A委員	案では10組限定となっていますが、この10組が例えばこの5回全部に出ることは考えられません。そうではなくて、例えば20組にしておいて、最初の川遊びであれば小学校5年生以上が対象ですよというふうに、適当な対象年齢を入れておいて、参加者に選んでもらって来たいものに来てもらう形にしておくと、やりやすいのかなと思います。全部に参加しなければならないとなると、ちょっとニーズに合わないものも、もしかしたら組み合わせであるかもしれません。
事務局	なるほど。イベントごとにターゲットを決めておくということですね。
A委員	そうしておくと、天体観測会の時のような、内容に対する不満はかなり軽減されると思います。

事務局	A委員のおっしゃるのは、募集を20組程度に少し多目にしておいて、全部来なくてもいいというやり方ですね。
A委員	対象となる年齢のイベントに来てもらうということですね。
副座長	こちらについても、今後やるという方向で詰めていきましょう。名前も含めて。ちょっと硬いので。
事務局	今いただいたご意見も踏まえて検討してまいります。ネーミングも良いものがあれば事務局までよろしくお願いします。

2. 周辺環境の整備について

主な発言は次のとおり

副座長	では、次第の2番ですが、周辺環境の整備について説明をお願いします。
事務局	周辺環境の整備ですが、これまではイチイ並木の話が主でしたが、ここを修繕すれば、或いは新たにこういったものを整備すると、こういった活性化に繋がるという点について、ご検討いただければと思います。
副座長	一昨日のスノーシュー体験の時に、木に遮られて展望台から風景が見えないという話がでていました。一部の木を剪定すれば見晴らしが良くなりますし、そういったことも含めてだと思いたいますが、いかがですか。
B委員	例えば、現在の木道は幅が2メートルほどあるけれども、その幅を半分や3分の1の幅にすれば、施設の維持の観点から良いと思う。現在は幅が広すぎて、落ち葉が乗ったまま風で飛んでいかずにそのまま腐ってしまう。落ち葉の時期は1ヶ月程度だけれども、風で木の葉が飛ぶ程度の幅にすれば、施設の寿命は延びるのでは。土台は鉄骨だから、上だけお金をかけずに整備できれば。
副座長	自分は、森なのでただ通れれば、直さなくてもよいとは思いますが。
C委員	撤去してウッドチップとかにできないのですか。
事務局	土台の鉄骨を撤去する必要があります。土台はしっかりしているのですが、歩く所が木材なのでその部分が腐っている状況です。コース自体はすごく良い所だと思うのですが、整備には多額の費用がかかり、難しいとは思いますが。
事務局	昨年先進地視察で行った森林セラピー基地では、コース上の樹木にこれは何の木ですよというものが付いていました。散策コースですので、そういったものがあればとは思いますが、いかがですか。
C委員	嵐山の北方野草園でもやっていますよね。あと、道道から若者の郷に入ってくる場所に看板があればよいと思います。ちょうどカーブの所から入ってくるので、分かりづらいですね。
副座長	環境整備については、予算の話もありますが、先ほど事務局さんから話があったように、木の看板とか工夫の範囲で出来ることもありますよね。
B委員	木に看板を付ける程度なら、そんなにお金はかからないですね。例えばホオノ

	キであれば、良い匂いがするだとか、説明書きがあっても良いよね。
副座長	それも次年度のテーマですよ。考えていただければと思います。

3 その他の（１）次回の開催について

主な発言は次のとおり

副座長	次回の開催についてですが、本年度は今回が最後ですし、A委員も異動されるということです。来年度の実施体制含めて、どのように考えているのか事務局からお願いいたします。
事務局	基本的に現状と変わらない形で考えている所ですが、座長のところをどうしようか検討しているところです。異動の時期ですので、4月以降に進め方の方針を決めていきたいと考えています。
副座長	次年度以降については、改めてご案内するということですね。会議ですとか、若者の郷くらぶ等々について、来年度も委員をされる方はよろしくお願ひしたいなと思います。
事務局	A委員については、後任の校長先生にお願いしたいなと思っています。4月に入った段階で、事務局からごあいさつに伺おうと思っておりますので、お伝えいただければ、よろしくお願ひいたします。

3 その他の（２）地域資源を活用した加工品の試食について

主な発言は次のとおり

副座長	では、その他の（２）ですが、イタヤカエデの樹液をB委員と事務局で煮込んでシロップを作って頂きました。お配りいただけますか。
B委員	午前中に試作センターの農産加工室で、樹液を煮詰めてみました。40分の1に濃縮すると、本当に甘くなる。冷えると蜂蜜と同じように、鍋の底に甘い蜜が張り付いて、こそぎとると飴のようになっていました。
事務局	甘さはどの程度ですか。
B委員	試作センターの糖度計は40度までしか測定できないのですが、30倍で測定した後に、その倍に煮詰めているので、約60度くらいあるはずですよ。
副座長	採取量はどの程度でしたか。
B委員	約32リットル採取して、煮詰めて800ミリリットルくらいになりました。所要時間は2時間半くらい。滅菌した瓶にシロップを入れて、再度滅菌したものがお手元のものです。
事務局	連休中の寒気の影響で日中の気温が上がらず、当初40リットルを想定していましたが採取量が伸びませんでした。このため、C委員と話し合い濃度別に作ることは断念しました。では、味見をお願いします。
事務局	とても美味しいですね。そしてのどに残る。

事務局	分離しているようですが、攪拌したほうがいいですか。
B委員	中のミネラル成分の比重が違うので、置いておくと分離してようになる。食べる時に攪拌したら良いです。パンに漬けたら最高ですよ。
事務局	何十倍に煮詰めると、もっとドロドロになるのですか。
B委員	煮詰めれば何十倍にでもなるけれども、人間はあまり甘すぎると飽きてしまうのです。飴やキャンデーで糖度が30度くらいなのですが、これは60度です。
事務局	これは、ただ煮詰めただけですか。こんなに甘くなるとは。日曜日のスノーシュー体験の時に舐めた樹液はサラサラでしたよね、味も殆どなくて。
事務局	結構コクがありますね。
B委員	原液は味が分からないくらいの糖度です。普通は煮詰めると鍋の周りにコゲが付きますが、この樹液は不純物がないのか、最後までコゲが付かずに煮詰めることができましたのですよ。
事務局	今回は、別途100ミリリットルを、食品細菌検査のために保健所に提出しています。検査項目は大腸菌、大腸菌群、黄色ブドウ球菌、カビ。結果が出るのに1週間から10日程度かかる見込みです。正確な糖度は、明日、農業センターで測定する予定です。
B委員	冷やしたら、鍋の縁に真っ白な硬いものができて。食べたら飴なんですよ。
D委員	蒸気釜にへばりついたものですね。要は、飴も作れるということですよ。
事務局	調べた所、カエデの樹液は、日中がプラスで夜間がマイナスの気温の時期にしか採取出来ないようです。夜間の気温がプラスになったら採取できなくなるとのことで、ちょうど3月中旬から4月中旬くらいがベストの時期だと思います。詳細な分析はまだですが、天気の良い日は多く取れる事も分かりました。
B委員	採取する4本の木のうち、細い木からは殆ど採取せず、逆に太い木からは沢山取れることが分かりました。また日当たりも関係しているようです。条件が良かったのか、1カ所の穴から、1時間に1リットル採取出来たこともありました。
事務局	若者の郷の敷地内のカエデの樹液から、間違いなくメイプルシロップを作ることができることを確認することができました。
副座長	ありがとうございました。若者の郷くらぶで何リットルか作って、参加したみんなでゴクゴク飲むのも良いかもしれませんね。 以上で次第については終わりましたが、他に何がございますか。では、本日の活性化協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。